

主 題：愛は律法を全うする 1

聖書箇所：ローマ人への手紙 13章8-10節

前回私たちは、上に立てられた権威の座に着く人たちに対する私たちの責任を学びました。彼らは神によって立てられ、神に仕える者たちだから、あなたがたは彼らに対する責任を果たしなさいとパウロはそうのように私たちに教えました。特に、パウロは三つのことを教えてくれました。税など、払うべきものはしっかり払いなさい、また、彼らを恐れ敬い敬意を表わしなさいと、そのようにパウロから教えられました。借りたものを返すように、これはしなければならないことだと私たちに教えます。ですから、7節に「義務を果たしなさい」と記されていました。この「義務」ということばは「負債、借金」という意味をもったことばです。「果たす」とは「借りたものを返す」という意味です。ですから、「借りたものは返すように」というのがパウロがここで教えたことでした。これらのことはあなたがしなければならないことだと。

さて、今日、私たちが見るのは8節です。この8節からは話が変わります。話の対象が「すべての人」へと変わってゆくことに私たちは気付きます。8節に「だれに対しても、」とあります。「互いに愛し合いなさい」、これが今日、私たちが学ぶテーマです。8節では「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。」とこのようにパウロは教えています。パウロはここで「互いに愛し合うこと以外に借りがあってはならない」と教えるのです。パウロは何を言わんとしているのでしょうか？この「何の借りもあってはいけません。」という「借り」ということばですが、これは「お金を借りる、借金をする」ということです。ですから、この箇所から、ある人たちは「借金は非聖書的である」と信じ教えています。結論は、聖書はそのようには教えていないということです。その理由を説明します。

◎借金は非聖書的でないという理由

1. 聖書は借金を認めている

たとえば、私たちも家を買う、何か物を買うときなど、資金の必要がある場合ローンを組みます。そのことを聖書は禁じてはいません。

(1) 旧約聖書では

金銭的な必要がある、貧しさを覚えているイスラエルの人々に対してこのように教えています。出エジプト22：25「わたしの民のひとり、あなたのところにいる貧しい者に金を貸すのなら、彼に対して金貸しのようにあってはならない。彼から利息を取ってはならない。」、ここでみことばが禁じていることは、お金を貸すことや借りることではありません。貧しいイスラエルの民から、他の人たちのように利息を取ってはならないということが禁じられているのです。詩篇37：26にはこのように記されています。

「その人はいつも情け深く人に貸す。その子孫は祝福を得る。」と。文脈からこれは正しい人です。その人は「いつも情け深く人に貸す。」とあります。ですから、このようにみことばはお金を貸すこと借りることを禁止してはいないのです。

(2) 新約聖書では

主イエスの教えを見たとき、マタイの福音書5章、山上の説教を見ると、主イエスご自身がこのように言っておられます。5：42「求める者には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。」と。また、ルカの福音書6：35でもこのように言っておられます。「ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。」と。敵に対しても「彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。」、彼らの必要に応えてあげなさいと言うのです。

ですから、旧約聖書も新約聖書も、確かにみことばは貸すこと借りることを禁じてはいないのです。では、何を禁じているのでしょうか？

2. 聖書は借金返済の不履行を禁じている

借りているのに返さないことは罪だと教えているのです。先ほどの詩篇37：21には「悪者は、借りるが返さない。正しい者は、情け深くて人に施す。」とあります。みことばは明らかに、借りていながら返さない人のことを「悪者」と呼んでいます。そこに罪が、問題があるのです。というのは、多くの人々は、返済のことを考えないで自分の願望を満たすために借金をしているからです。自分の欲しいものを手に入れるために便利なもの、カードがあります。その結果、自己破産の人々が年々増えています。日本でも20万人以上の人たちが自己破産を申告していると言います。面白い研究がアメリカのハーバー

ド大学でなされました。どうして人は自己破産をするのか、幾つかの理由があって、その中の一つに「金銭の管理不能」とあります。だれでもが分かることです。お金をどのように使うのかについて、それぞれが注意しなければなりません。ですから、みことばが禁じていることはそこです。というのは、多くの人々は自分の欲しいものを手に入れるために返済のことを考えないで借りるから、その結果、返済不能に陥ってしまうのです。借りたものを返さなくなってしまう、みことばはそれを禁じているのです。

もう一度、8節に戻って「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。」と、パウロは借金をしたら必ずその返済を行ないなさいと命じています。人から借りたなら、その返済を忠実に果たすこと、もし、それができないのなら借りないことです。返せないのなら借りないことです。欲しくても買わないことです。パウロはこの命令をすべての人に対して与えています。クリスチャンであろうとなかろうと、すべての人に対して「借りたら返す」という責任を果たしなさいと言うのです。

ただし、例外があるとここに記されています。「ただし、」と接続詞に否定の「NOT」を付けて、例外があると言わんとするのです。それは「愛に関する」ことです。「互いに愛し合うこと」が実は例外だと言うのです。どういう意味でしょう？説明します。借金をした場合、ローンを組んだときには、必ずその返済をします。それが終わったときには返済の義務がなくなります。しかし、愛に関してはそうではない、愛することは借金とは異なり返済が終わることがないのです。すなわち、生きている間は完済のときが来ることはないと言うのです。ずっとその借金を払い続けてゆくように、まさに、そのようなものと言うのです。今、私たちが見て来たように、返済不能の借金はしない、しかし、愛することは、まさに返済不能な借金のようなもの、ずっと払い続けて行かなければならない、私たちが天に召されるまで払い続けてゆくと。「隣人を愛し続けなさい」とこれがパウロがここで命じたことです。人から借りたものは完済のときが来ます。しかし、愛に関してはそうではない、地上に生きている間、ずっと返済し続けなければなりません。つまり、隣人をずっと愛し続けてゆきなさいと、それがパウロがここで与えている命令です。

特に、今、世では「愛」ということばを一年の中で一番聞くときかもしれません。私たちが正しい愛を理解するためには聖書に戻らなければなりません。私たちは今週と次回、「愛」について学びます。「愛を示しなさい」、「隣人を愛しなさい」とパウロは言いました。その「愛の実践」に関して、具体的にどのように愛を示して行くのか、どのようなことが隣人を愛することなのか、そのことを今日残された時間で学んでゆきます。

## ☆隣人を愛するとは？

### A. 愛の実践

#### 1. 人々に良いことをする

ローマ12：20ですで見ましたが、「もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。」とあります。たとえ、その人があなたを嫌って酷いことをしたとしても、悲しくなるようなことをされたとしても、また、いろいろな出来事に対してあなたが怒りをもって仕返しをしたいと思うようなことがあったとしても、あなたは神が喜ばれることを選択しなさい、神の前に正しいことをしなさいと言うのです。それがまず、パウロが最初に私たちに教えることです。

そのことに関してもう少し、主ご自身のことばを見ながら具体的に見て行きましょう。マタイの福音書5章43節から、山上の説教の中で、今話していることについて主がこのようなことを教えています。5：43-48「『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。：44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。：45 それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。：46 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。：47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。：48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」、私たちが隣人を愛してゆくに当たって、彼らに良いことをするのです。どのような悪を行なう人であっても彼らを愛するのです。その愛が増加わって行くようにと。

同時に、その人たちが祝されるように祈ってゆきます。私たちが祈るに当たって、自分に嫌なことをされたときに愛を示すのは大変難しいことです。私たちは簡単なことでも主の助けがいます。難しいことはなおさらです。だから、私たちは主に助けを求めます。「主よ、どうぞ、その悪に対して悪で報いることをせずに、あなたが望んでいらっしゃるように彼らに対して正しいことを行なえるように、彼らに対して親切であり続けるように、あなたが喜んでくださるようなことを実践できるように助けてください。」と、そうして我々は主の前に祈り続けることが必要だし、同時に、その人たちの上に

神の祝福があるように祈り続けて行くことが必要です。良いことをしなさいと言うのです。

## 2. 犠牲を払う

一番大きな愛は何ですか？ヨハネ15：13にあるように「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」と主がお語りになりました。一番大きな愛とは、だれかのために自分にとって一番大切なものを犠牲にすることです。それは「いのち」です。それが一番大きな愛だと言うのです。ということは、隣人を愛するということは「私のために何をしてくれますか？」ではなくて、人々の益のために何ができるかを考えて行動することです。彼らが喜びにより満ちあふれて生きるために、信仰において成長するために私は何ができるのか、そのことを考えるのです。実は、そのような人たちが、私たちの群れの中にもたくさん与えられています。非常に感謝なことです。彼らは自分の時間を喜んで犠牲にしています。訪問したり手紙を書いたり、また、ときには物質的な援助をしたり、また、実際に集会に行きたくても足がない人のために足となって集会にお誘いしたり、いろいろな形で喜んで犠牲を払いながら、自分よりも人々の益のために尽くそうとする、それが隣人を愛することだと言うのです。どうぞその通り、今為しておられるとおりに継続して為し続けてください。犠牲を払い続けてください。

## 3. 赦す

パウロはコロサイ人への手紙3章12節からそのことを教えるのですが、特に、13節「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」と言います。エペソ人への手紙4：32でも同じことを教えます。「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」と。ですから、こうしてみことばを見ると、私たちは隣人を愛するゆえに、彼らを赦し続けて行くことの必要性を教えられています。赦すということは難しいことです。赦すとは忘れることとは違います。忘れることは問題に対する勝利ではなく逃避です。その問題を懸命に忘れようとしてもどこかに必ず残っています。それが必ずよみがえって来ます。忘れることには問題への勝利はありません。では、どうすればいいのでしょうか？主が赦してくださったように、私たちもその問題にピリオドを打つことです。みことばが教えているように、主によって赦されたことをまず覚えることです。

信仰者の皆さん、私たちはイエスの十字架をいつも見上げておかなければいけないということを何度も見えています。自分が赦されたことを忘れてしまうと人を赦すことは難しくなります。本当の神の赦し、神のすばらしさを知っているのは私たちクリスチャンだけです。その赦しを知っている者だけが赦しを実践することができるのです。それによって、私たちは神の赦しがどんなにすばらしいものであるかを世に証していくのです。もし、私たちクリスチャンがなかなか赦すことができない者であるなら、私たちが人々の前で証している主の赦しは、実際とは異なるものです。そんなことがあってはならないのです。確かに、難しいことです。でも皆さん、主がこのことを私たちに命じていることは、私たちがこのことを実行できるからです。主が赦してくださったように、私たちも互いに赦し合うことができる、そのような歩みを私たちは実行できるのです。それが神が私たちに与えてくださっている希望です。どうぞ「できない」と思わずに「こんな人に神は変えていってください」ということをぜひ覚えてください。隣人を愛するということは赦すことだと言います。

## 4. 伝道する

イエスがエルサレムを見たときの様子がマタイの福音書23章に出て来ます。23：37「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。」「ああ、エルサレム、エルサレム。」と嘆かれたイエスの姿が出て来ますが、なぜ、嘆かれたのでしょうか？人々が神の前に心を閉ざし続けていたからです。彼らはいつまで経っても神の前に心を開くことがなかったからです。主がその頑なさを見て、その罪深さを見て、心を痛めておられるのです。ということは、どれ程主が人々の救いを望んでいらっしゃるのか、私たちはそのことを知ります。主なる神に逆らっている人々に最も大切なものは「救い」です。皆さん、あなたの愛する者たちが今永遠の滅びに向かっていくことを知っていながら、私たちが何もしないというのは何か問題があります。皆さんがして来られたように一生懸命祈っている、ありとあらゆる機会をもって彼らに語り続けて、このキリストしか罪を赦すことができないと、たとえ、彼らが聞きたくなくても私たちはこのメッセージを語り続けて行かなければいけません。主イエスしか我々の罪を赦し、我々に救いをもたらす方はいらっしゃらないのです。彼らを愛する者は、彼らに一番必要なメッセージを語り続けます。彼らは聞かなければいけないのです。彼らが心から受け入れなければいけないメッセージだからです。

同時に、こんなことを実践できませんか？私たちの群れに新しい人が来られたときに、私たちはどのように彼らに接するのでしょうか？クリスチャンの皆さん、私たちがここに来て親しい者たちと交わること

も大切です。それを否定しているのではありません。でも、私たちが優先しなければいけないのは、まだイエス・キリストを知らない皆さんのことです。こうしてともにお連れすることもそうですが、そのような人が来られたら、私たちのフォーカスはそちらに向くはずですが、話ができなくても祈ることができます。「主よ、どうぞ心を開いてあげてください。このすばらしい救いを受けることができるようにその心に働いてください。」と。新しい人が教会に来られたとき、まだイエスを知らない人が教会に来られたときに、教会員全員がその人のために祈っているなら、少なくとも、私たちは主のみわざに期待できると思いませんか？主イエス・キリストのすばらしい救いを伝えることは隣人を愛することです。私たちもそのことを実践する者になりたいです。

## 5. さばかないこと

ローマ14：13にこのように記されています。「ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。」、この「さばき合う」とある「さばき」とは「非難する、とがめる」という意味をもったことばです。パウロがこのように言ったのは、恐らく、聖書的な見解が違うということではなくて、それぞれの思いや考えが違うことによって引き起こされた様々な非難です。そういうことに問題があったのでしょうか。信者どうしがもし非難し合っているなら、神の栄光を現わすどころか汚すことは明らかです。考え方が違うからとか、思いが違うからとか、自分とは好みが違うからと、兄弟姉妹が非難し合っている…、人が集まればみんな違います。

ある人たちはこれまで受けた教えや慣習が異なるからと言うかもしれませんが。私たちが心がけたいことは「経験や伝統に基づいて考える者から、聖書的に考える者になる」ことです。「これまではこうだったから」と、それはどうでも良いのです。大切なことは、それが聖書的かどうかです。聖書的になろうということはそういうことです。聖書を見て明らかなことは、多くのクリスチャンと呼ばれる者たちが陥った大きな過ちは、みことばではなくて人間の教えに関心を払ったということです。私たちがしなければいけないことは、もう一度、私たちの考えを聖書に戻して、それが本当に聖書的なかどうかを判断することです。私たちは自分と考えが違うからとか、自分と好みが違うからと言って人々を非難するのではありません。非難しなければいけないのは「自分自身」です。さばかなければいけないのは「自分」です。どのように歩んでいるのかを正確に、また、厳しくさばくことです。私たちはどちらかと言うと、自分をさておいて人に対してあれこれ言います。問題は、私たちが神の前にどのように生きているかということです。

## 6. つまずきを与えない

ローマ人への手紙14：13の後半にこのように書かれています。「いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しなさい。」。14：21には「肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良いことなのです。」とあります。本来なら、兄弟姉妹が集まったときに、信仰の弱い人たちの成長を助けることが教会の目標であるはずですが。そのような人たちの信仰の成長の妨げをしてはならないと言うのです。なぜなら、皆さんはみな「模範」だからです。イエスを知らない人にとってもあなたは模範です。それは、罪の赦しをいただき、創造主に対して正しく生きることがどんなにすばらしいことかを、生き方をもって人々に示して行くことです。だから、模範なのです。救われたことがどんなにすばらしいのかを私たちは世に証する訳です。あなたのことを見ているイエスを知らない人たちが、あなたを見て、あなたの語っている救いに魅力を感じなければ、私たちは余り良い模範として生きてはいないということになりませんか？もちろん、信者に対しても我々は模範です。主に従うことの喜び、その意義を示して行くのです。

そして、私たちが模範として示すことができる最高のレッスンの機会は、私たちが罪を犯したときです。人々はそのときに私たちが信仰者としてどのように対処するのかを見ているのです。いくらでも良いことは言えます。しかし、問題は私たちが失敗したときに、どのように主の前に正しくそれを解決するのかです。どちらかというところの方が難しいのです。私たちもよく耳にすることですが、「お父さんはずるい。僕らには怒るのに自分も同じことをやっている。お母さんは悪い。僕らを怒りながら自分も同じことをやっている。」と。そこには真理があります。私たちは模範として生きているのです。後に続いて来る者たちに信仰の模範を示すのです。こうして生きることがすばらしいということを彼らに示して行くのです。

私たちは彼らにたとえ「私は罪を犯さない」と語ったとしても、嘘をついていることを彼らはすぐに見破ります。問題は私たちがどのように生きるのかです。罪を犯したならどのように解決するかです。私たちは隣人を愛する者として、弱いものたちにつまずきを与えてはならないと言われます。

## 7. 教化に励む

パウロはIコリント8：1でこのように言います。「…しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。」、また同じように、ローマ14：19でもこう言います。「そういうわけですから、私たちは、平和

に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。」、パウロが私たちに教えていることは「信仰の成長のために労しなさい」ということです。どうすれば良いのでしょうか？私たちがともに集まったときに、しっかりとみことばを学び、そして、互いに励まし合うことです。こうして私たちがこのように主日を迎えたときに、ともにみことばを学んで、みことばの真理を知ったときに、「私はこのみことばの真理に従ってみことばを実践したいと思うからどうぞ祈ってほしい。」と言い合い、そして、週の半ばにでも連絡し合って「どうですか？」と問い合い、みことばに従い続けているのかどうか確認しながら、ともにみことばを実践する者へと成長していくことができます。

皆さん、耳にタコができる程皆さんは聞いています。信仰の成長は「みことばを正しく学び、実践する以外にない」のです。絶対に起こらないのです。どれだけの集会に参加するかではないのです。参加していてもみことばをただ聞くだけでは成長しないのです。みことばを聞き、みことばを実践しなければいけません。だから、みことばはこのように私たちに「**お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。**」と教えるのです。隣人を愛すること、互いの信仰の成長のために労し合うことです。

私たちは「愛の実践」ということを見ています。隣人を愛するとはどのようにすることか？「良いことをしなさい」と言いました。「犠牲を払いなさい」、「赦しなさい」、「伝道していきなさい」、「さばいてはいけない」、「つまずきを与えない」、そして、「教化に励みなさい」と言いました。

### 8. 悪口を言わない

噂をしないことです。Iペテロ4：8に「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」と言っています。人の悪口を聞くと心が痛みます。悪口は聞きたくないですね、皆さん。だから、私たちはそのようなことをいっさい口から出そうとしないことです。パウロがエペソ4：29で「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」と言っています。あなたとの終わりが終わったとき、どれだけの人が「神さま、この機会をくださったことを感謝します。」と主に感謝なさるでしょうか？ことばで罪を犯す人が非常に多いです。だから、私たちは次のように決心することです。「悪口をいっさい口から出さない。私はそのことを決心したい。そして、神の助けをいただきながらそのように歩んで行きたい。」と。恐らく、そのような人がおられることと思います。もしそうなら、神があなたを豊かに祝しあなたを変えて行ってくださることを信じ、そのことを願います。私たちは決めなければいけないのです。「悪いことばを口から出さない！」と。悪口を言わないように、人のうわさをしないようにと。

### 9. 仕える

ガラテヤ5：13には「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」とあります。この「仕える」ということばは、「奴隷として仕える」という意味です。つまり、人に仕えられることを求めるのではなく、人に仕えることを実践するのです。人のために何ができるのかを考えるのです。私のために何かやってくださいではないのです。仕えられることを期待するのではなく、仕えることを実践するのです。私たちの群れであってもこの群れであっても必要なのは、偉い人ではなくて人に仕える人です。そういう人たちが与えられていることを神に感謝しなければいけません。仕えること、人に仕えることは隣人を愛することだと言います。

### 10. 戒規を行なうこと

実は、これも隣人を愛することです。戒規を行なうとはどういうことか？罪を悔い改めるように促すことです。みことばをご覧いただくと、殆どの皆さんは非常に厳しいことばが記されていることに気付かれることと思います。

- ・「除名」＝テトス3：10「分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい。」
- ・「交際しないように」＝Iコリント5：9-13「私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないようにと書きました。：10 それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだとしたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。：11 私が書いたことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしめる者、酒に酔う者、略奪する者がいたなら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてはいけない、ということです。：12 外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょうか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。：13 外部の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除きなさい。」、パウロは言います。「これはイエスを知らない人たちのことではありません。教会の中の人たちです。クリスチャンだと言っている人たちのことです。教会の中でクリスチャンだと言っている人たちが罪の生活をしているならば、交際しないように」と言うのです。
- ・「人の前で責めなさい」＝Iテモテ5：20「罪を犯している者をすべての人の前で責めなさい。ほかの人

をも恐れさせるためです。」

さて、このようなみことばを見たときに、実は、このみことばはすべて、罪を犯している兄弟姉妹への愛を教えているのです。これはその人たちに対するいじめでも意地悪でもないのです。彼らのためなのです。反抗的な信仰者が悔い改めて正しくなるために、為すべきことが記されているのです。なぜなら、道に迷った人を正しく導いて上げることは、彼らにとって最善のことだからです。考えてください。イエスを信じたと言う者たちが主の道から外れているならば、神の前に罪を犯し続けているなら、私たちが言えることは「あなたは罪を犯している。あなたは間違っている。神の前に悔い改めなさい。」ということです。これは間違っていますか？彼らにとって大切なこと、彼らが聞かなければいけないメッセージを語ることは間違っていますか？彼らがもし、神に逆らい続けているならば、そして、彼らが信仰者なら、彼らは神からの祝福をいただくことができません。地上にあっても永遠にあっても。信仰者として祝福をいただきながら日々歩めるのに、その祝福を逃してしまっている、それを見てなぜそれで良しとしますか？クリスチャンだと言いながら神から離れている人がいるならば「あなたは間違っている」と彼らに教えなければいけないのです。ですから、マタイの福音書の18章で、主ご自身がはっきりと教えてくれています。18：15－18「また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。：16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。：17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。：18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」、罪を犯している人がいるなら、その人のところに行って「あなたは罪を犯している。悔い改めなさい。」と言うのです。それを聞こうとしないなら複数の者たちが「あなたは罪を犯している。悔い改めなさい。」と言うのです。それでも聞こうとしないなら、教会の前で「この人は罪を犯しています。みんなで悔い改めるように祈りましょう。」と言うのです。そのときに全員がすることは「交わりを絶つ」ことです。そして「あなたは罪を犯している。神の前に悔い改めなさい。」ということをお話すのです。なぜなら、そうすることによって、その人が正しい道に帰って来る可能性があるからです。

すべてその目的のためです。あの人嫌いだとか、この人が嫌いだとか、どちらが正しいとか、そのようなことを言っているではありません。主のみことばが私たちに教えることは、罪を犯している兄弟姉妹がいるならば、彼らに対して、それが間違っていることを話すということです。だから、私たちは「交わりを絶ちなさい」と言うのです。ですから、教会から離れて、イエスを信じていない人たちと同じ様な生活をしている人がいるなら、これまでと同じ交わりを持つことはできないし、そのようにしてはならないのです。もし、今までと同じ交わりを持つなら、それは愛ではないのです。「私たちには人情があります。かわいそうではないですか！」と言いますか？私たちが気にしなければいけないこと、本当に彼らのことを思うのなら、聖書が教えているようにしなければいけないのです。私たちは余りにも人の目を意識しすぎて、神の目を疎かにしています。

私たちは人の心を変えることはできません。変えることができるのは神だけです。では、その神に働いていただくためには、神が教えておられることを実践しなかったら絶対に起こらないことです。しかし私たちの問題は、あたかも私たちが人の心を変えることができるかのように考えて、私たちがベストと思うことを自分の力でやっていることです。私たちがしなければいけないのは、みことばが教えているようにこのように接することです。これまで親しく食事をしてきた人でも、「あなたは神の前に罪を犯しています。その罪を悔い改めて神の前に立ち返って来なさい。そして、そのときに再びかつての交わりを持つことができるから、あなたのために祈っています。」と言って、その人にかつての親しい交わりができないことを明らかにするのです。なぜ、そのようにするのですか？隣人を愛しているからです。彼らを愛しているからです。彼らを愛しているから、彼らとその罪から立ち返って来るように、私たちはそのことを彼らに教えなければいけないのです。みことばはそのように私たちに教えています。

こうして隣人を愛する愛を実践しなさいとパウロは教えました。今、十個のリストを見ました。大変難しいことが出て来ました。こんなことは実践不可能だと思うかもしれません。

## B. 実践の力

### 1. 主の救いを得る

このように本当に神の愛をもって隣人を愛していくためには、主の救いを得なければいけません。つまり、救われなければ無理だということです。Iヨハネ4：7に「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょ。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」とあります。また、4：16にも「私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにい

る者は神のうちにおり、神もその人の中におられます。」とあります。つまり、ヨハネが教えることは、神の愛をいただいた者だけが神の愛をもって愛することができるということです。愛は神から出ていると言うのです。すなわち、愛の源は神だとヨハネは教えているのです。ですから、神の愛をもって人を愛すること、神の愛をもって赦すこと、罪を責めること、そのように実践していくためには、私たちはこの神の愛をいただいているなければ、その愛をもって人を愛することはできないのです。ですから、実践のためにまず必要なことは、私たちはこの神の救いをいただいていることです。救われていなければ無理だということです。

## 2. 主の力を得る

パウロはテサロニケの教会に対して非常に面白い祈りをささげています。実は、このテサロニケの教会は、愛に代表されるような教会です。パウロはこのようなことをIテサロニケ4：9で言っています。「兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。」と、非常に模範的だったのです。兄弟姉妹が愛し合っているすばらしい教会です。その教会に対してパウロが次のようなことを主の前に祈るのです。Iテサロニケ3：12「また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいますように。」と。「愛」で知られたテサロニケの教会が益々互いの愛において成長するようにとパウロは主に祈ったのです。

互いへの愛が、ちょうど、入れ物から満ち溢れてこぼれ落ちるほどに成長していくようにと、そのことをパウロは祈っています。なぜ、パウロはこんなことを祈ったのでしょうか？それはこれが主において可能だからです。主はこのようなことを為してくださるお方だからです。主は確実にあなたの愛を成長させて、そして、神の愛を実践する者へと変えて行ってくださいます。あなたの内側からその愛が溢れ出て来るように、主はあなたを変えて行ってくださる。どうすればよいのか？日々、主の前に自らの罪を告白しながら生きてください。主に逆らっている主のわざを見ることはできません。主の前に常に罪を告白することです。そして、愛において成長するように神の前に祈り求めることです。そして、私たちに力を与え、信仰者として成長させてくださる主に私たちのすべてを委ねて、また、このお方に自分のすべてを支配し続けてくださることを願って歩み続けて行くことです。

「御霊の実」が記されています。イエスを信じたあなたにはその実が与えられています。その九つの実の最初は何でしたか？「御霊の実は、愛…」です。主があなたのうちにそのような愛を实らせたわけではなく、その愛を成長させてくれるのです。だから、私たちは主に助けを求めながら歩み続けていくことが必要なのです。信仰者の皆さん、どれ程学びをしても実践するまでは何も変わって来ません。でも、みこころがこうして示された以上、私たちの責任はそれを行なうかどうかです。どうぞ、隣人を愛する者として今日からまた新しく歩み始めてください。今、みことばが教えてくれたことを実践する者として、今日から新しい歩みを始めてください。その決心をもって。「主よ、私は今日からこのように生きて行きたい、どうぞ、私を助けてください。そして、私を通してあなたのすばらしさが証されて行くように私を使ってください。」と、その祈りをもって今日からまた歩んでください。

「隣人を愛すること」、それが主があなたに望んでおられることです。

### 《考えましょう》

1. 愛において成長することは可能でしょうか？その理由を挙げてください。
2. 愛において成長するにはどうすれば良いでしょうか？
3. 愛において成長することがどうして大切なのでしょうか？